

「子ども・若者と大人が本気トーク！」

〜こどもと楽しいまちプロジェクト〜

大山町は、誰もが住み続けたいな
るまちを目指して、こどもと楽しい
まちプロジェクトを進めています。
その一環として、「大山町の大人のみ
なさん小中高生の声を聞いてくれ！」
を11月23日に行いました。会場の名
和中学校体育館には、小中高生から
大人まで、総勢133人が集まりま
した。

プログラムは3部構成となってい
て、第1部では、トークフォーカダ
ンス(注)を行いました。進行役の

山口覚さん(慶應義塾大学院特



任教授)からの「宇宙人はいると思
いますか。それはなぜ?」「あなたが
スゴイ!と思う人は誰ですか」「大失
敗だったことは」など、11の質問に
対して、こどもと大人が輪になって
1分間ずつ語り合いました。最初は
緊張からか、堅苦しく始まりました
が、すぐに緊張もほぐれ、笑顔と笑
い声、一生懸命考える姿や、本気の
語りなど会場全体が熱気に包まれま
した。

第2部では、中山地区の高校生の
山内楓さんが、「高校生になると地域
との接点がなくなり、同世代に会え
る機会も減少し、楽しいことがない。
地域も若者の力が必要というが、手
伝いばかりという経験から、自分自
身のために楽しいと思える場所を自
分たちでつくりたい。大人たちに手
伝ってほしい」と訴え、会場内の参
加者に共感を与えていました。

また、同級生グループで意見発表
した名和地区の高校生の真島郁実さ
んと林原遥乃さん、大原陸さんは、
大山町がとにかく好きだが、米子市
の友達にその良さを理解してもらえ



ないという経験から、米子市と大山
町を比較し、高校生の目線で感じる
長所と短所を、ユーモアを交えて発
表しました。そして自分たちが感じ
る不便さを逆手に取り、「野菜がもら
える」「駅までの道中大声で歌える」
「自転車通学で足腰が鍛えられる」な
ど大山町だからこそできる『米子の
高校生インバウンド作戦』を提案し
ました。

第3部では、第1部、第2部の振
り返りとして、「今日感じたこと」「ど
うしたら大人になっても大山に住み
たいと思うか」「やってみたいこと」
「手伝ってあげられること」などを共
有しました。参加した子どもから、「国
會議員になるのが目標です」といつ
た発表もあり、歓声が湧きました。

最後に高校生から、「このプロジェ
クトを機会に大人と子どもが交流を



深め、世代を超えたネットワークで
一緒に大山町の未来をつくっていき
ましょう」と「TEGOTEGO(テ
ゴテゴ)大山チャレンジネットワー
ク」の結成を宣言しました。

終了後の会場からは、「とてもよい
イベントだった」「いろんな地区で継
続してやっていくべき」「子どもたち
の真剣な姿に大山町の未来は明るい。
心が温まった」など前向きなご意見
をいただきました。

(注) トークフォーカダンス

大人とこどもが1対1でフォーカダ
ンスのように1〜2分ごとに入れ替
わって対話するワークショップ。話
題は、地域のこと・学校のこと・暮
らし・悩みなど。